

(様式 1) 実施報告書-プログラム B

1 補助事業者情報

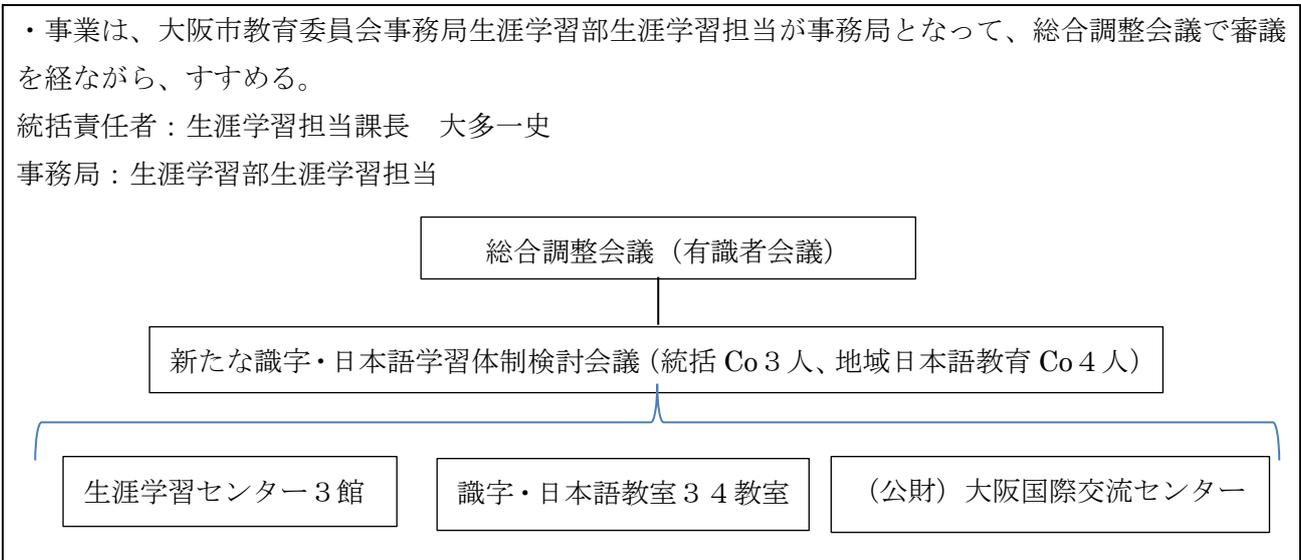
団体名	大阪市
-----	-----

2 事業の概要

1. 事業の名称	大阪市における地域識字・日本語教育体制整備事業
2. 事業の期間	令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 10 日 (11 か月間)
3. 事業実施前の現状と課題	<p>大阪市においては、平成 30 年末現在、人口に占める外国人住民数の割合が 5.07%と都道府県・政令指定都市の中で、最高の比率となっている。(平成 30 年末 外国人住民数 137,467 人、総人口 2,714,484 人)</p> <p>本市における外国人住民等を対象として実施されている識字・日本語教室等の現状を見ると、国際化の進展による新たな外国人住民及び義務教育を十分に受けられなかった人など、さまざまな理由から日本語の読み書き、会話等に不自由している方々に対して、市内小・中学校等を実施場所として、地域住民の方々が日本語の読み書き、会話の交流を行う学習機会を提供することで社会参加促進を図る識字・日本語教室 (34 か所)、大阪に暮らす外国人住民、外国にルーツを持つ子どもたちに対して大阪市国際交流センターなどを会場として生活支援につながる日本語の学習機会となる日本語教室 (5 教室)、それに加えて、大学・市民団体等で実施している識字・日本語教室、民間の日本語学校、企業における日本語教育など、それぞれにおいて多種多様な活動が行われている。</p> <p>また、上記教室等にかかわる日本語教育人材の研修等について、生涯学習センターと大阪市国際交流センターで実施されている取組があるが、その内容においてはお互いに教室活動の紹介を行うなどの十分な連携ができておらず、それぞれの教室活動にかかわる人材の育成となっている。</p> <p>現時点では、それぞれの教室が主体となって外国人住民等に対して識字・日本語活動を行っているが、大阪市全体として関係機関同士の情報共有を含め、有機的な連携等を行うための体制が構築できていない。</p>
4. 目的	<p>平成 31 年 4 月「出入国管理及び難民認定法」改正による新しい在留資格の創設等の国の政策によって、今後、在留外国人の更なる増加が見込まれている。それを受け、令和元年 6 月には、「日本語教育の推進に関する法律」が施行され、外国人を日本社会の一員として受け入れていく (社会包摂) ため、日本語能力が十分でない外国人が生活等必要な日本語能力を身につけられるよう、大阪市が、関係機関等と有機的に連携しつつ行う新たな日本語教育環境を強化するための総合的な体制づくりが求められている。</p> <p>本事業は、識字推進事業で構築してきた識字・日本語教室の体制に、新たに総括コーディネーター等を加えて、大阪市全体で、教室運営や多様な学習者の日本語学習に関する相談など識字・日本語教室支援、生涯学習センター・国際交流センター・NPO 団体等の関係機関との拡大したネットワーク構築等に取り組み、新たな市内識字・日本語学習の推進体制の構築をめざす。</p>

3 事業の実施体制

(1) 実施体制 (図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを含めて記載してください。)



《事業の中核メンバー》

	氏名	所属	職名	役割
1	菅原智恵美	識字・日本語教室連絡会	副代表	総括コーディネーター
2	鵜飼聖子	こどもひろば	事務局長	〃
3	柴田亨	社会教育施設識字学級モデル教室「よみかき茶屋」	コーディネーター	〃
4	掛橋智佳子	生活の漢字を考える会	日本語講師	地域識字・日本語教育 コーディネーター
5	川崎百世	生活の漢字を考える会	日本語講師	〃
6	細見新市	加島識字・日本語教室	コーディネーター	〃
7	竹本暁代	日之出識字・日本語教室	コーディネーター	〃

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

- ・識字・日本語連絡会との連携 (月 1 回程度、参加者：大阪府下での識字と日本語、夜間中学校に関わる団体や個人など) 大阪府、堺市とも協力しつつ、大阪府下での識字・日本語教室等活動の支援・充実に向けて、交流会等の実施に取り組む。
- ・大阪識字・日本語協議会へ参加 (年 2 回程度、参加者：大阪府、大阪市、堺市、識字・日本語連絡会、大阪府人権協会関係者など) 大阪府が実施している識字・日本語事業の内容についての説明・意見交換を行う機会を持つ。そのことで、関係団体等との協力体制の確認や今後の事業実施にむけての意見をもらう。
- ・外国にルーツを持つこども支援ネットワーク大阪会議 (年 4 回程度)
外国にルーツを持つこどもの支援に携わるボランティア・運営担当者が気軽に集まり、顔の見える関係を築き、情報交換・共有、相談の場として開催し、地域で子どもをサポートする体制を強化する。

4 令和2年度の事業概要

1. 令和2年度の実施目標				
<p>大阪市教育委員会の識字推進事業として構築してきた識字・日本語教室の体制に、①新たに総括コーディネーター等を加えた体制で識字・日本語教室支援を行うとともに、②(公財)大阪国際交流センター等の関係機関との拡大したネットワーク構築等に取り組み、新たな識字・日本語学習の推進体制を検討する。</p> <p>① 大阪市内における識字・日本語教育の実施に関する連携のための取組</p> <p>② 識字・日本語教育人材に対する研修</p> <p>③ 地域識字・日本語教育の実施</p> <p>④ ICTを活用した日本語教室等のあり方検討</p>				
2. 実施内容				
(取組1) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	有田典代	NPO 法人関西国際交流 団体協議会	理事	国際交流の実践者の 立場からの意見
2	岩槻知也	京都女子大学	教授	学識経験者の立場か ら、識字教育・社会教 育・生涯学習の視点 での意見
3	上杉孝實	京都大学	名誉教授	学識経験者の立場か ら、基礎教育、学校と 社会教育の連携につ いての意見
4	新矢麻紀子	大阪産業大学	教授	学識経験者、日本語 教室実践者の立場か ら、地域ボランティア による日本語学習 支援にむけての意見
5	西口光一	大阪大学	教授	学識経験者の立場か ら、職場や地域等で 行う日本語教育につ いての意見
6	森実	大阪教育大学	教授	学識経験者の立場か ら、人権教育・社会教 育についての意見

7	丸山敏夫	大阪市内識字・日本語教室連絡会	代表	教室における学習支援の実践者の立場からの意見また、元中学校教員の立場から保護者・子どもへの支援にかかる意見
8	梅元理恵	(公財)大阪国際交流センター	常務理事兼事務局長	多文化共生の実践及び日本語教室運営者の立場からの意見

②実施結果

実施回数	1回
実施スケジュール	3月 識字推進事業の進捗状況の確認・事業の総括・意見交換
主な検討項目	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の識字・日本語学習体制の検討について ・コロナ禍を踏まえた識字・日本語教室の運営について

(取組2) 総括コーディネーターの配置

総括コーディネーター3名を配置し、今後の大阪市内の識字・日本語教育関係団体等の有機的な連携をめざして、それぞれ①市内識字・日本語教室、大学、行政等との連携、②大阪国際交流センター、NPO、日本語学校等との連携、③生涯学習センター、社会教育施設識字学級等との連携に向けた調整を行った。

(取組3) 地域日本語教育コーディネーターの配置にむけた取組

地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 選択した取組に○を記入してください。

地域日本語教育コーディネーターの候補者の育成【()】

地域識字・日本語教育コーディネーターとして、主に教室運営についての指導・助言を行う者と、主に日本語指導の手法や教材等についての指導・助言を行う者とが各識字・日本語教室を巡回し、教室運営の支援を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響にともなう教室休止により、教室巡回を実施することができず、各教室からの相談等に対して個別に指導・助言の対応を行った。

【重点項目】

(取組4) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

◎新たな識字・日本語学習体制検討会議

総括 Co と地域識字・日本語教育 Co が集まり、識字・日本語教室支援のあり方、関係機関の連携など今後の識字・日本語教育体制等について検討した。

(第1回)【実施日】令和2年11月21日(土) 午前10時～12時

【場 所】総合生涯学習センター

【参加者】10名

- 【内 容】・新たな識字・日本語体制検討会議の進め方について
- ・教室巡回の実施について

(第2回) 【実施日】 令和2年1月18日(月) 午後1時30分～3時30分

【場 所】 リモートによる実施

【参加者】 7名

- 【内 容】・コロナウイルス感染拡大にともなう各識字・日本語教室の状況について
- ・教室対象アンケートの実施について
- ・大阪市における識字・日本語施策の課題について(意見交換)

◎識字・日本語パネル展

大阪市内識字日本語教室の学習者・学習支援者のメッセージを記載した「えんぴつポスター」をはじめ、各教室の様子を紹介する写真等を中央図書館ロビーにて展示を行った。

【実施期間】 令和2年9月18日(金)～9月30日(水)

【場 所】 大阪市立中央図書館 1階エントランスホールギャラリー

- 【内 容】・学習者・学習支援者のメッセージを記載した「えんぴつポスター」の掲示
- ・各教室の様子を紹介する写真パネルの掲示
- ・各教室で作成した文集等の展示



◎識字学級コーディネーター会議

識字・日本語教室の円滑な運営に向けて、識字学級コーディネーター等が集まり、今後の教室運営・関係機関との連携等について、情報提供および意見交換を行った。

(第1回) 【日 時】 令和2年6月20日(土) 午後6時30分～8時30分

【場 所】 大阪市立総合生涯学習センター

【参加者】 17名

- 【内 容】・新型コロナウイルス感染拡大防止対策と教室の再開について
- ・意見交換

(第2回) 【日 時】 令和2年9月26日(土) 午後6時30分～8時30分

【場 所】 大阪市立総合生涯学習センター

【参加者】 15名

- 【内 容】・教室の再開および再開後の運営上の課題について
- ・地域識字・日本語教育コーディネーターの巡回について
- ・人権尊重の識字・日本語教室活動について

◎識字・日本語交流教室担当者会

識字・日本語交流教室の円滑な運営に向けて、担当者が集まり、今後の教室運営・関係機関との連携等について、情報提供および意見交換を行った。

(第1回)【日 時】令和2年6月24日(水) 午前10時～12時

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター

【参加者】13名

【内 容】・新型コロナウイルス感染拡大防止対策と教室の再開について
・意見交換

(第2回)【日 時】令和2年9月23日(水) 午前10時～12時

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター

【参加者】11名

【内 容】・教室の再開および再開後の運営上の課題について
・地域識字・日本語教育コーディネーターの巡回について
・人権尊重の識字・日本語教室活動について

(取組5) 日本語教育人材に対する研修(研修受講者数: のべ294人)

◎識字・日本語交流ボランティア入門講座

識字・日本語教室でのボランティア活動を希望する方を対象に、活動を始める前に知っておきたい事柄や、教室で大切にしていることなどについて学ぶ入門講座を開催した。

(第1期) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

(第2期)【日 時】令和2年9月1日(火)～9月29日(火) 19:00～21:00

【場 所】: 大阪市立難波市民学習センター

【参加者】: 定員: 20名 申込者: 35名 参加者: 19名(のべ60名)

【内 容】: (第1回: 9/1)

『識字・日本語教室』の意義と役割～識字・日本語教室ってどんなところ?～

講 師: 森 実さん(大阪教育大学 教員)

(第2回: 9/8)

『識字・日本語ボランティア』とは～実際にどんなことをするの?～

講 師: 菅原 智恵美さん(大阪市内識字・日本語教室連絡会)

(第3回: 9/15)

『識字・日本語ボランティア』をはじめる前に

～人とのかかわり方について考えてみよう～

講 師: 李 福美さん(NPO法人 KARALIN)

(第4回: 9/29)

『識字・日本語ボランティア』で大切なこと～講座をふりかえって～

講 師: 森 実さん(大阪教育大学 教員)

【受講後の状況】

「実際の活動に役立つ」100%、「学んだことを活かして活動に関わりたい」100%

具体的に活動を開始希望: 8名 活動を希望するも教室が休止中であつた: 2名

【開催にあたって工夫した点】

- ・例年、入門講座では教室見学を実施してきたが、今年度は感染症予防の観点から実施できず、代わりとして教室の様子をビデオで上映するなど、参加者が教室での活動をイメージしやすいよう配慮した。参加者間の距離を確保しながら、参加者同士の意見交換も行った。

(第3期) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

◎識字・日本語ボランティアのためのスキルアップ講座

現在、大阪市内識字・日本語教室で活動しているボランティア講師を対象に、実際の教室活動で役立つより実践的な識字・日本語の指導方法について学ぶ研修を実施した。

【日 時】 令和2年10月10日(土)～12月12日(土) 10:00～12:00 毎週土曜日 全10回

【場 所】 大阪市立総合生涯学習センター

【内 容】 全10回の連続講座で、「人権感覚を土台にした識字・日本語ボランティアになろう!」や「外国語として日本語を見てみよう」「わかりやすい日本語で～コミュニケーションの取り方～」などをテーマに、識字・日本語の指導法や活動の進め方について学んだ。

【講 師】 大阪YWCA日本語教師会講師

【参加者】 定員：20名 申込者：30名 参加者：15名 (のべ131名)

◎識字・日本語ボランティアのためのステップアップ講座

現在、大阪市内識字・日本語教室で活動しているボランティア講師等を対象に、コロナ禍での外国人の現状や、多文化共生社会における人権問題等について学ぶ研修を実施した。

【日 時】 令和3年2月20日(土)、2月27日(土)、3月6日(土)

【場 所】 大阪市立総合生涯学習センター

【内 容】 (第1回：2/20)

「コロナ禍での日本における外国人の現況と今後」

講師：早崎 直美さん (RINKS すべての外国人労働者とその家族の人権を守る

関西ネットワーク 事務局長)

定員：30名 申込者：36名 参加者：31名

(第2回：2/27)

「多文化共生社会におけるマイクロアグレッション

／レイシャルハラスメントについて考える」

講師：北川 知子さん (特定非営利活動法人とんだばやし国際交流協会 理事長)

定員：30名 申込者：38名 参加者：25名

(第3回：3/6)

「教室での学習活動・教材について考えよう」

講師：森 実さん (大阪教育大学 教員)

定員：30名 申込者：34名 参加者：27名

(取組6) 地域日本語教育の実施			
【○】 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育			
【 】 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育			
実施箇所数	32 箇所	受講者数	のべ 3,532 人
活動 1	<p>【名称】 基礎レベルの日本語（既設）</p> <p>【目標】 日本に帰国・来日して日が浅く、日本語がわからなくて困っていたり、初めて日本語を学ぶ外国人住民等を対象に、生活上必要最低限の意思疎通が図れる程度の基礎の日本語を習得する場として開催した。</p> <p>(第1期) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により朝・夜コースとも中止</p> <p>(第2期) 【日 時】 令和2年10月12日(月)～12月21日(月) 毎週月・金曜日(週2回) 全20回 朝コース：10時～12時 夜コース：19時～21時 〔レベルチェックテスト：朝・夜とも10月2日(金)〕</p> <p>【場 所】 大阪市立阿倍野市民学習センター</p> <p>【参加者】 (朝コース) 定員：20名 申込者：35名 参加者：18名 のべ参加者：234名 (夜コース) 定員：20名 申込者：24名 参加者：15名 のべ参加者：207名</p> <p>(第3期) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、夜コースは1/13の1回目のみ実施し、その後は中止。</p> <p>【日 時】 令和3年1月13日(水)～3月19日(金) 毎週水・金曜日(週2回) 全20回 朝コース：10時～12時 夜コース：19時～21時 〔レベルチェックテスト：朝・夜とも1月6日(水)〕</p> <p>【場 所】 大阪市立総合生涯学習センター</p> <p>【参加者】 (朝コース) 定員：15名 申込者：34名 参加者：25名 (夜コース) 定員：15名 申込者：13名 参加者：13名</p> <p>【受講者募集方法】 HP、市内生涯学習施設等でのチラシ設置</p> <p>【内 容】 大阪市作成教材「にほんごこんにちは」を活用し、日本語講師が学校の講義形式で指導。</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>		
活動 2	<p>【名称】 識字・日本語教室（識字学級・地域識字・日本語交流教室）（既設）</p> <p>【目標】 国際化の進展による新たな外国人住民及びさまざまな理由により義務教育を十分に受けられなかった人など、さまざまな理由から日本語の読み書き、会話等に不自由している方々に対し学習機会を提供し、社会参加促進を図る。</p> <p>【実施回数】 のべ 365 回（1回 1.5～2時間）</p>		

	<p>【受講者数】 のべ1,787人（登録者数589人）</p> <p>【実施場所】 市内小・中学校等28か所</p> <p>【受講者募集方法】 教育委員会、総合生涯学習センターHP、生涯学習施設でチラシ設置</p> <p>【内容】 マンツーマン、グループで、日本語の読み書き、会話を通して、交流を図る。</p> <p>【開始した月】 令和2年7月</p> <p>【講師】 のべ1,463人（登録者数238人）</p> <p>【受講者募集方法】 HP等での周知</p> <p>【開催にあたって工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年4月～6月30日と令和3年1月～2月28日については、ほぼすべての教室において活動を休止した。 ・令和2年7月以降、使用している学校や施設との調整、手指や使用設備の消毒や各参加者間の距離の確保などの教室における感染防止対策について参加者に対して周知徹底を行ったうえで、準備が整った教室から再開を行った。 ・一方、参加者に高齢者が多いといった状況や、学校での使用による児童・生徒への感染リスクといった懸念などから、当面の間、再開を見合わせる教室もあった。 <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有</p>
活動3	<p>【名称】 外国人ふれあいサロン</p> <p>【目標】 外国人住民の快適な生活に不可欠な日本語の指導を行い、特に、平日に日本語学校に通う機会のない外国人住民や、日本語学校の正規課程に入学し、長期間集中して日本語を学ぶ機会に恵まれない外国人住民に対し、日本語に触れ、学び、日本人と交流する機会を提供する。また外国人の要望に十分応えられるよう、ボランティアの資質向上のため研修会を行う。</p> <p>【実施回数】 20回（1回1時間）</p> <p>【受講者数】 26人（のべ254人）</p> <p>【ボランティア数】 27人（のべ414人）</p> <p>【活動ボランティアのスキルアップ研修】 8月1日実施 参加者数：23人</p> <p>【実施場所】 大阪国際交流センター会議室（Zoomホスト）及び参加者自宅等</p> <p>【受講者募集方法】 （公財）大阪国際交流センターHP、Facebook</p> <p>【内容】 基本1対1での日本語指導。会話を中心に、参加者の要望に合わせて日本語指導の経験をもつボランティアが対応。</p> <p>今年度は、コロナ禍の影響で対面活動が難しい状況を受け、ボランティア向けZoom研修会を実施。オンライン（Zoom）でのサロン再開をめざして、8月～9月は毎土曜日、ボランティア約20名が参加して、外国人役・ボランティア役・コーディネーター（ホスト）役に分かれてZoomでの日本語学習支援練習を繰り返し、10月から外国人学習者を公募して本格的なZoomサロンを開催。コロナ感染拡大で日本語学習の機会を失った外国人に対し、オンラインでの学習機会を提供した。</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>



標準的なカリキュラム案等の活用の有無：

【名称】 たのしい日本語

【目標】 外国人住民の快適な生活の実現に不可欠な日本語の習得のため、特に、平日の昼間に日本語学校に通う機会のない外国人住民や、日本語学校の正規課程に入学し長期間集中して日本語を学ぶ機会に恵まれない外国人住民に対し、テキストに従ったカリキュラムに基づき、体系的に授業が受けられる場を提供する。指導にあたるボランティアについては、登録ボランティアの中から専門的技術やスキルを有するボランティアを選定し、活動の場を提供し、研修を実施することで指導ボランティアの資質のさらなる向上にも努める。

【実施回数】 42回（1回1.5時間）

【受講者数】 11人（のべ74人）

【指導ボランティア数】 14人（のべ159人）

【活動ボランティアのスキルアップ研修】 8月1日実施 参加者数：13人

【実施場所】 大阪国際交流センター会議室（Zoom）及び参加者自宅等

【受講者募集方法】（公財）大阪国際交流センターHP、Facebook

活動4

【内容】 クラス形式での日本語指導（直接法）

使用教材：『みんなの日本語 初級1』（スリーエーネットワーク刊）

第1期は、新型コロナウイルス感染防止のため休止。第2期、3期は、Zoomでの開催に変えて実施

第2期：初級2（7～12課）、初級3（13～18課）（9月～12月）

第3期：初級3（13～18課）、初級4（19～25課）（1月～3月）

実践用教材：『みんなの日本語 初級1』（スリーエーネットワーク刊）



	標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 5	<p>【名称】 未就学・ダイレクト向け日本語・学習支援</p> <p>【目標】 大阪に暮らす外国人の増加とともに、保護者の少なくとも一方が外国人である、いわゆる”外国にルーツを持つ子ども”が増加している。こうした子どものうち、未就学児や母国で中学校を卒業した後に渡日した子どもたち（ダイレクト）については、学校教育の対象外とされているのが現状である。また、高校生や日本生まれの外国にルーツを持つ子どもについては、在籍する学校により生徒数や支援が異なり、在籍生徒の少ない学校に通う子どもは孤立し、自身のアイデンティティについて悩むことも少なくない。日本語学習についても、子どもの日常生活に沿った内容での支援が必要であるにも関わらず、成人対象の教室と比べ、子ども対象の教室は少なく、日本語の支援を受けることができる場も十分にあるとはいえない状況である。</p> <p>こうした子どもに対して、学校を含む生活全般で使う日本語や学習に必要な日本語を学ぶ場を提供し、より安心して快適な学校生活が送れるようコーディネートする。</p> <p>（「外国にルーツを持つこどものためのプレスクール」ボランティア養成講座）</p> <p>【実施回数】 4回（令和3年1月7日、14日、21日、28日）</p> <p>【参加者数】 59人（のべ73人）</p> <p>【実施場所】 大阪国際交流センター会議室</p> <p>【受講者募集方法】（公財）大阪国際交流センターHP、Facebook、区役所、図書館、生涯学習施設、地域日本語教室、教会等にチラシ設置</p> <p>（「外国につながるこどものためのプレスクール」）</p> <p>【実施時期】 2月13日～3月27日</p> <p>【実施場所】 大阪市内7か所 9会場（2か所については2会場で実施） （大阪市教育委員会 共生支援拠点4校及び大阪市内の学校3校）</p> <p>【実施回数】 各会場3回 合計27回（各回2時間）</p> <p>【参加者数】 70名（のべ137名）</p> <p>【内容】「プレスクール」では、小学校で使う日本語（あいさつ、体や物の名前、位置関係等）や学校のルール等を学び、子どもとその保護者にとって、学校生活を含む日本での生活がスムーズになるよう支援するため、ボランティア等を対象に養成講座を実施し、養成講座受講者がプレスクール当日、外国にルーツを持つ子どもの指導にあたった。</p> <p>本年度は、初めて大阪市教育委員会の協力を得て、大阪市全域でプレスクールを開催することができ、より多くの対象児童及び保護者に参加機会を提供した。</p>

(「こどもひろば」)

【実施回数】(ダイレクトを主な対象) 全64回

・毎週1~2回 (月・木【日本語補習】

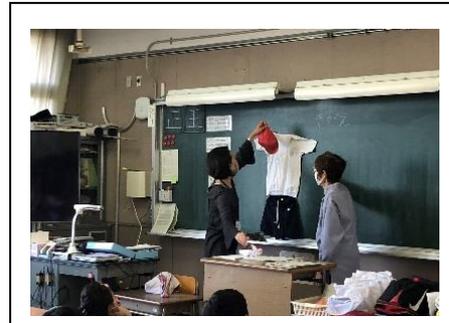
木については該当者がいる場合に開催) 3時間程度

【児童・生徒参加者数】 40人(のべ485人)

【ボランティア参加者数】 48人(のべ566人)

【内容】学校を含む生活に必要な日本語を学び、子どもの学習言語の力を伸ばし、学校生活を含む日本での生活の充実につなげた。教室運営については、ボランティアが連携し、協働して行った。コロナ禍の中、感染予防対策をとり、対面での教室運営を実施した。また、緊急事態宣言中には、オンライン(Zoom)を活用し、子どもたちの支援を行った。

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無



プレスクール



こどもひろば

活動6

【名称】日曜にほんごサロン

【目標】外国人が日本語について気軽に質問したり(例:手紙の読み方、書類の書き方等)交流できる場として、また、日本語が全く話せない外国人にとっては、日本の生活についての情報を得ることができる場として開催。「これから日本語を教えてみたい」と考える人や、自身の経験を活かしたいと考える外国人がボランティアとして担い手となり活躍し、毎週日曜に外国人が自由に参加し、日本語を学んだり、母語で交流したり、相談できたりするなど、外国人の住民の生活面のサポートも行う。また、令和2年度からコーディネーター(有償ボランティア)を導入し、ボランティアによる自

律的な教室運営を目指す。

【実施回数】 19 回（毎週日曜 13：00～14：30）

【受講者数】 35 名（のべ 119 人）

【ボランティア参加者数】 コーディネーター含む 18 名（のべ 127 人）

【実施場所】 大阪国際交流センター会議室（zoom）及び参加者自宅等

【受講者募集方法】（公財）大阪国際交流センターHP、Facebook、区役所、図書館、生涯学習施設、地域日本語教室、教会等にチラシ設置

【内容】 基本 1 対 1 での日本語教室。今年度は、コロナ禍の中、対面でのサロン開催が難しく、活動ボランティアを対象に、オンライン（Zoom）によるボランティア養成講座（全 1 回）を実施。オンライン（Zoom）を活用して、参加者・ボランティアが気軽に集まり顔の見える関係を築き、日常生活で困ったこと・分からないことを助け合う関係性を作るとともに、参加者が日本語を学び会話するきっかけとなることで、日本語学習への意欲を高め、当財団や地域の日本語教室へ参加する機会へとつなげた。

またコーディネーター対象の研修を実施し、育成を図った。

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無



活動 7

【名称】 生活日本語コース

【目標】 外国人住民が、市民同様に快適に安心して生活できるように、最低限必要な日本語の会話能力の習得と、日本語の理解を高めることを目的として、（公財）大阪国際交流センターと独立行政法人日本学生支援機構大阪日本語教育センターとの共催で日本語教育センターの講師が指導する生活日本語コースを運営する。

多文化共生事業における日本語学習支援として、ボランティアによる「外国人ふれあいサロン」、「たのしい日本語」、「日曜にほんごサロン」との重層的な学習機会として提供する。

【実施日】 春コース：4 月 27 日～7 月 10 日（新型コロナウイルス影響により中止）

秋コース：8 月 21 日～11 月 6 日【51 日間】

冬コース：11 月 24 日～2 月 26 日【52 日間】

【受講者数】 62 人

【講師】 秋コース 17 人、冬コース 17 人（日本語教師）

【実施場所】 日本学生支援機構 大阪日本語教育センター

【内容】新型コロナウイルス感染拡大によって、2020年4月7日に緊急事態宣言が出されたこと等により、春コースは中止。その後、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から受講者の定員数を半分にし、オンラインで秋、冬コースを開催した。

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

日本学生支援機構大阪日本語教育センター開発テキスト：

1. 「毎日話そう日本語」：会話例から、文法のパターン練習とタスク解決の練習に展開する。
2. 「日本で生活する人のための15のつぶやき一日々の暮らしを題材にした日本語中上級テキスト」：15のトピック(生活上の疑問や感じたこと)ごとに、関連の語彙や文法、会話例を学び、そのトピックに関する自分の状況や意見を表明する機会にもする。



活動8

【名称】 仕事のための日本語

【目標】 生活者としての外国人が大阪で仕事をするために必要な日本語や、企業文化等を学ぶ機会としての日本語教室を開催。

この教室では、高校卒業後の進路に就職を選ぼうとする外国ルーツのこどもたちも対象とし、こどもたちの進路に向けた支援の場としての機能も持ち、就職サポートを行うNPO等の企業での就労経験者などによる就職支援の機会を教室開催期間中に月2回程度設ける。

【実施回数】 教材開発検討会：3回（8月28日、11月18日、2月17日）

教材企画調整会：2回（9月29日、10月30日、2月16日）

教材の検証のための教室「仕事のための実践日本語」開催（試行）：全15回（11月～1月）

就職に向けたアドバイス講座：2回（2月2日、2月5日）

【受講者数】 仕事のための実践日本語：7人（のべ91人）

就職に向けたアドバイス講座：5人（のべ9人）

【講師】 仕事のための実践日本語：2人（日本語教師）

就職に向けたアドバイス講座：3人

【実施場所】 大阪国際交流センター会議室

【受講者募集方法】 (公財)大阪国際交流センターHP、Facebook、生涯学習施設等に

チラシ設置

【関係機関との連携】

大阪産業局：検討委員の派遣

大阪日本語教育センター：日本語教師の派遣

特定非営利活動法人 For International Students：就職アドバイス講座講師派遣

【内容】令和2年度は、教材の開発を中心に行い、有識者による検討委員会を設け、検討委員会の議論を踏まえ、全15回分の講座に使用するテキスト案を作成した。また、試行的に仕事のための日本語を学ぶ教室を開催し、開発した教材を検証した。また、企業での就労経験者などによる就職アドバイス講座も2回実施した。検証結果を踏まえ、テキスト案を完成させ、令和3年度からの本格実施につなげた。

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無



その他の取組

識字日本語教室研修会

識字・日本語教室において、人権課題等についての講座を企画・実施した。

◎日之出よみかき教室 学習者・学習パートナー対象研修会

【日時】令和2年11月26日（木）・12月3日（木） 午後8時～9時 全2回

【場所】大阪市立淡路中学校 1階多目的室

【内容】「教室参加者のための同和問題学習」

東淀川区で子どもの学習支援活動を支援する取り組みを行うとともに、同和問題の解決に尽力する講師から、現在の同和問題の状況についてお話しいただいた。

【講師】牧 憲一 さん

（菽之茶屋地域周辺まちづくり合同会社事務局長／特定非営利活動法人JUMP代表理事）

【参加者】のべ20名

※日之出よみかき教室は、識字学習者と日本語学習者とがともに学ぶ教室として活動を行っており、一人ひとりの背景や立場の違いを尊重しながらともに学ぶ場となるよう、定期的に外国人や同和地区を取り巻く人権問題などについて学ぶ機会を設けている。今年度は人権問題研修のテーマとして、同和問題を取り上げ、学習を行ったものである。

3. 効果

(1) 効果

① 定量評価

- ・総合調整会議：前年度（－）回 当年度（1）回
- ・総括コーディネーター配置数：前年度（－）人 当年度（3）人
- ・地域日本語教育コーディネーター配置数：前年度（－）人 当年度（4）人
- ・実施した日本語教育人材に対する研修：（28）回（3）箇所 当年度（17）回（2）箇所
- ・実施した日本語教室：前年度（1309）回（40箇所） 当年度（365）回（32箇所）

② 定性評価

(i) 連携機関の広がりについて

今回の事業を実施するにあたり、大阪市では、教育委員会事務局と経済戦略局〔(公財)国際交流センター〕の両部局で補助金申請を行っており、年4回程度の事務打ち合わせ等の機会に合わせて、今後の大阪市における総合的な識字・日本語学習体制の構築について意見交換を行うなど、(公財)国際交流センターをはじめとした関係機関とのネットワークを拡大することができた。

(ii) 新たな連携機関と連携した内容

新型コロナウイルスの感染拡大状況等により、新たな機関との連携を実現することはできなかったが、令和2年12月に策定した大阪市多文化共生指針の策定議論にかかわった委員などとも情報交換を行い、多文化共生や外国人の生活支援などの視点から、今後の識字・日本語学習体制について検討することができた。

(iii) どのような体制を構築できたか

大阪市においては、各識字・日本語教室の設立経過の違いや、所管部局が多岐にわたっていることなどにより、関係機関どうしの情報共有を含め、行政としても有機的な連携等を行うための体制が十分に構築できていない部分があったが、本事業の実施にともない、多くの識字・日本語教室を所管する教育委員会事務局・(公財)国際交流センターを所管する経済戦略局・多文化共生施策を担う市民局の横断的な連携をめざした環境づくりを行うことができた。

(iv) 事業実施に当たっての周辺自治体や域内の関係者等へ周知・広報及び事業成果の地域への発信について

実際の事業実施にあたっては、大阪市内の行政区への周知・広報にとどまったが、ホームページでのやさしい日本語の使用や、ボランティア募集記事の区民だよりへの掲載など、ニーズのある方により届きやすいような手法について工夫した。

また、大阪識字・日本語協議会や、大阪府下の識字・日本語施策の担当者会などの場に参加し、主催で定期的に行われている識字・日本語施策の担当者会などの場に参加し、大阪市が実施している識字・日本語事業の内容についての説明・意見交換を行うとともに、他の自治体の取り組み等についても情報共有を行った。

4. 課題と今後の展望

(1) 課題と困難な状況への対応方法

大阪市の識字・日本語施策においては、施策にかかわる部局が複数存在し、有機的な連携が十分に図れていないという課題があるが、本事業の実施にあたり「総合的な体制づくり」に向けた議論を進める中で、連携を図るとともに、人材育成や事業の実施において、今後、いっそうの連携強化や具体的な役割分担などを進めていくことについて意見共有することができた。

また、今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、識字・日本語教室をはじめとした事業の休止といった状況が生じたことで、学習場所の確保や、参加者の安心・安全の確保など、現在の教室の実施体制についての課題が明らかになった。各教室の運営担当者や利用施設とのコミュニケーションによる教室再開方法の模索や、ICTを活用した学習活動などの取り組みをすすめたが、引き続き安定的な教室運営に向けて検討する必要がある。

(2) 今後の展望

今年度構築したネットワークをより拡充し、大阪市の識字・日本語施策における総合的な体制づくりに向けて、引き続き有機的な連携に向けた取り組みを進めるとともに、人材育成や識字・日本語学習事業の実施において、具体的な役割分担などの議論などを進めていく。

また、新型コロナウイルス感染拡大による教室の休止等を踏まえ、令和3年度以降、ニーズ調査や「新たな体制検討会議」での議論などにより、ICTの活用や人材の確保など、非常時も含め、日々の生活に必要な言語習得の環境を継続的に提供できる体制づくりに向けて、検討を行う。

【参考資料】